

令和3年度第4回教育研究評議会議事録

日時 令和3年6月16日(水) 14:30～18:11 TV会議
場所 事務局5階大会議室、S-P o r t 3階会議室
出席者 日詰、塩尻、川田、森田、大場、川村、片田、池田、高倉、金原、本橋、
近藤、田島、桐谷、熊倉、村山、笹原、小西、田中、山本、喜多、木村、
鳥山、加藤、江口、猪川、原、三村、朴、坂本の各評議員
陪席者 鈴木、河島の各監事、井柳、下村の各学長補佐
厨子 大学教育センター長、長谷川 情報基盤センター長、北村 防災総合センター
長、山本 保健センター所長
平井農学部副学部長（審議事項2のみ）
堂園・人を対象とする研究倫理委員会委員長（審議事項5のみ）

I 前回議事録の承認について

令和3年度第3回教育研究評議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 静岡大学の将来構想（新法人設立・大学再編）について

議長から、静岡大学の将来構想（新法人設立・大学再編）について、資料1-1により、令和2年度以降の会議等の開催状況、資料1-2により、第30回静岡大学・浜松医科大学連携協議会（令和3年6月4日）、資料1-3により、第29回法人運営検討専門委員会（令和3年5月25日）議事要旨（案）、資料1-4により、第19回浜松地区の大学運営検討専門委員会（令和3年5月24日）議事要旨（案）の報告があり、意見交換を行った。

<議長の主な説明>

- ・ 法人統合の議論をどこまで戻って議論する必要があるのかという点についても意見交換を行った。浜松医科大学側は遠山プランまで遡ることはない、すなわち一法人一大学は考えていないこと、浜松地区大学ができることを期待しており、尖った浜松地区の大学と特徴をもった静岡地区の大学双方が同じ法人のもとにあり、静岡県における高等教育の新たな担い手に飛躍していくという発言もあった。
- ・ 本学からは、法人統合することのメリットについては、これまでそこに焦点を当てて議論されていないので議論していきたいと伝えた。浜松医科大学からは現行の2大学で1法人というのは将来の展望を考えてもメリットはないとの意見もあった。また、静岡大学は2つのキャンパスが離れていて学生の交流もないので分離することには無理はないのではないかという指摘もあった。これについては、学生交流が全くないわけではなく、現学生は大学再編により各種活動に影響が出ることに懸念を持っているので、論点を整理して議論したいと伝えた。
- ・ 法人がどんな姿になり、どんなことができるのかについては、両地区の大学の議論を進めてからでもよいのではないかという浜松医科大学の意見に対しては、法人統合の議論をきっちりと進め、その延長上に大学の再編の在り方を議論したいという本学の主張であったが、そのあたりも両大学が十分にかみ合っているとはいえないところである。
- ・ 静岡キャンパスに焦点が当てられ議論が進んでいるが、もう一方の当事者の浜松キャンパス

ンパスの意向も十分踏まえて議論すべきであるとの指摘があった。

- ・ 浜松医科大学からは、「浜松」という名称には歴史的な経緯があり、それを外す名称は難しいとの意見もあった。
- ・ 教育課程専門委員会で検討する案件では、両地区大学共通の業務に関するものや、各地区大学で考えるべきものがあるが、各地区大学との親和性が高い案件については、現在開催が滞っている教育課程専門委員会を再開して議論を進めていきたいと考えているとの報告が浜松医科大学からあったが、進め方については検討させてほしいと依頼している。
- ・ 新法人設立・大学再編計画書（仮称）（案）については、再度本学側で整理することが了承された。

<委員から出された意見等>

- ・ 近藤委員から、浜松医科大学は鮮明に合意書に記載された内容を強く打ち出しているとの理解したが、学長と理事はどのように考えられているのかとの質問があり、議長から、浜松医科大学はこれまで取ってきた方向性は変えるつもりはないことは承知している。静岡大学を分けるということについては様々な意見があるため、そのあたりを考えるには、法人統合の議論から始める必要があるのではないかと、法人統合のメリット・デメリットなど論点整理をして議論していきたいとの回答があった。

また、近藤委員から、心配しているのはタイミングやスケジュール感であって、このスピード感で決着できるのか危惧しているとの発言があり、議長から一定程度の議論を熟したところを持っていく努力を続けていきたい。いつまでに結論を出すということを出発点とするのは現段階では難しいが、長い期間をかけるつもりはないので、理解いただきたいとの発言があった。

- ・ 小西委員から、浜松キャンパスの意見を取り入れるとのことであるが、いつ頃どのような形で行う予定であるのかとの質問があり、議長から、昨年12月に情報学部・工学部の総務委員会の構成員と意見交換を行った後開催できていない。先日の浜松地区の部局長等連絡会でどういう形で行うのがよいか意見交換をしたところであるが、7月頃の開催を目途に開催方法については相談させていただきたいとの回答があった。

2 新学部構想について

平井農学部副学部長及び川田委員から、静岡キャンパスにおける教育研究組織検討ワーキンググループ（WG）及び浜松キャンパスにおける教育研究組織検討WGの中間まとめについて報告があった。

また、議長から、前回の企画戦略会議での意見交換の概要と今後の進め方について説明があった。

3 大学運営会議設置に伴う学則及び関係規則の一部改正等について

議長から、大学運営会議設置に伴う学則及び関係規則の一部改正等について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

4 静岡大学教員の任期に関する規則の一部改正について

塩尻委員から、静岡大学教員の任期に関する規則の一部改正について、資料4により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

5 静岡大学における人を対象とする研究に関する規則の一部改正について

堂園・人を対象とする研究倫理委員会委員長から、静岡大学における人を対象とする研究に関する規則の一部改正について、資料5（一部修正あり）により提案があり、審議の結果、これを承認した。

6 静岡大学における内部質保証に関する方針の改正について

金原委員から、静岡大学における内部質保証に関する方針の改正について、資料6により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

7 令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

金原委員から、令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について、資料7により提案があり、審議の結果、これを承認した。

8 第4期中期目標・中期計画（素案）について

森田委員から、第4期中期目標・中期計画（素案）について、資料8により、進捗状況と今後のスケジュールについて説明があった。

また、川田委員から、第4期中の重点研究分野と重点推進分野の選定理由等について説明があった。

9 機関別認証評価における自己評価書について

金原委員から、機関別認証評価における自己評価書について、資料9により提案があり、審議の結果、これを承認した。

<委員から出された意見等>

- ・ 近藤委員から、基準を満たさない、基準5-1（学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること）について、令和5年度の入学者選抜から適用予定としているが、令和5年度の入試なのか、令和5年度の入学者を選抜するタイミングであるのかとの質問と直ちに対応できる部分であるののではないかと発言があり、金原委員から、令和5年度入学者を選抜する来年度に向け今年度中に策定すると思われること、また、塩尻委員から、今回の修正はすぐに対応できる内容ではあるが、認証評価を受審した上で他に検討が必要な点もあるので、その点も含めて検討したいとの発言があった。

10 学生の懲戒処分について

池田委員から、学生の懲戒処分（2件）について、別添資料により提案があり、審議の結果、資料の修正を行うことを含め、これを承認した。

なお、複数の委員及び監事から、処分の対象となる学生のフォローについて要望があり、当該学部長から、フォロー体制等、学部の今後の対応について発言があった。

Ⅲ 報告事項

1 令和3年度第3回企画戦略会議（令和3年6月2日）報告

議長から、令和3年度3回企画戦略会議（令和3年6月2日）について、資料10により報告があった。

また、6月10日に行われた国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）のヒアリングの概要について報告があった。

<議長の主な報告（審査委員からの主な質問）>

- ・ 新学部については複数の構想があると説明があったが、現段階の構想の内容を聞きたい。また、新学部創設のスケジュール感はどのように考えているのか。
- ・ 現在の静岡大学の総合科学技術研究科は、非常に大きな規模を持っており、静岡と浜松の横断型教育プログラムを特長としていると思うが、2つの大学に再編した後、この特長はどうなるのか。
- ・ 2大学への再編は目的でなく手段だと思うが、手段が目的化してはいないか。
- ・ 当初掲げていた光創成事業からの新たな先端的科学技術を用いた地域貢献のようなことがどれくらい残っているのかがよく分からない。人文科学系も含めた総合知、価値創造のベクトルを静岡大学が入れていくのだろうと思っていたが、静岡大学で今取り組むべきこと、例えば新学部の設立であったり、浜松側との連携強化であったりは、静岡大学の改革にとって必要であったとしても、当初持っていた光という新たな価値を2大学が作っていくというような非常に大きなビジョンは果たして未だに生きているのか。
- ・ ICT 環境の整備ということであるが、もう少し進んだ考え方が必要な時期なのではないか。
- ・ 東部サテライトについて、将来的にどういうものにする考えか。

2 令和2年度卒業・修了者の進路状況について

池田委員から、令和2年度卒業・修了者の進路状況（5月1日現在）について、資料11により報告があった。

3 各部局における内部統制システムの運用状況について

議長から、各部局における内部統制システムの運用状況について、資料12により内部統制が十分機能しなかったために発生したリスク事案の報告があった。

なお、内部統制システム推進責任者として、内部統制システムの運用に問題があると思われる事態について特段の報告はなかった。

4 令和2年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について

森田委員から、令和2年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について、資料13により報告があった。

5 令和4年度施設整備費補助金概算要求事項について

片田委員から、令和4年度施設整備費補助金概算要求事項について、資料14により報告があった。

6 THE 世界大学ランキング日本版 2021 静岡大学の結果と状況について

森田委員から、THE 世界大学ランキング日本版 2021 静岡大学の結果と状況について、資料15により報告があった。

IV その他

1 令和3年度の静大フェスタの実施について

議長から、令和3年度の静大フェスタについて、資料16により実施方針の説明があった。

2 静岡大学SDGs宣言について

議長から、静岡大学 SDGs 宣言（案）について、資料17により説明があり、SDGs 目標ごとの各部局の取組について、6月末までに報告いただきたいとの依頼があった。

3 未来社会デザイン機構講演会の開催について

塩尻委員から、6月26日（土）にオンライン開催する未来社会デザイン機構講演会について、資料18によりお知らせがあった。

4 新型コロナウイルス感染症に関する大学の対応について

議長から、新型コロナウイルス感染症に関し、学生の危機意識を高め、感染防止をより一層進めるため、地域創造学環アート&マネジメントコース3年生3名に「黙食」啓発ポスターを制作いただき、静岡・浜松キャンパスの学食、学生寮の食堂に掲示したとの報告があった。

また、片田委員から、学生や教職員を対象としたワクチンの大学接種について、検討状況等の報告があり、意見交換を行った。

<委員から出された意見等>

- ・ 山本保健センター所長から、職域ワクチン接種は賛成であること、それに対する懸念事項や他大学の状況等について発言があった。また、外注はやむを得ないが、浜松医科大学へ応援を要請することについて提案があった。
- ・ 笹原委員から、新型コロナウイルス感染症に関する対策本部の開催について要望があり、議長から調整し実施したいとの発言があった。

以上